

# Library

3月号2021（令和3）年度



兵庫県立三木東高等学校 図書館 発行

## \*1年間の記録

※来館者数をカウントしてくれた図書委員の皆さん、1年間ありがとうございました。

	○来館者数ランキング	昼休み	11/1(木)25名
			1/21(金)25名
			10/28(木)24名
			11/5(金)24名
		放課後	11/4(木)37名
			10/4(月)33名
			4/19(月)33名
			1/18(火)32名

読書奨励賞~おめでとうございます

3の1 ○〇さん 115冊

3の1 ○〇さん 111冊

2月25日に表彰されました

○授業で図書館を使用した時間(図書オリエンテーションは除く)3/1(火)現在

英語表現	2時間	表現の探究	2時間
生物	1時間	総合学習	2時間
合計 7時間			

○web 面接 web 会議で図書館を使用した時間

5月職員1名	web 会議	8時間
9月生徒1名	web 面接	2時間

○今年度最後の開館日は3/22(火)、次年度は4/11(月)から開館予定です。

## \*おすすめの1冊



「多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。」

(Jam マンガ・文 精神科医 名越 康文 監修  
サンクチュアリ出版 2018年7月20日)

みなさんは、悩んだ時、どのように解決に向けて行動をしていますか。色々な方法があると思いますが、本を読むのも、一つだと思います。相手の何気ない一言に、傷ついたり、心が疲れてしまうこともありますね。そんな時にこの本を開いてみてください。きっと新しい気持ちでまた前を向けると思います。

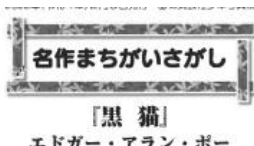
この本は図書館でもよく手にとられる一冊で、考え方を変えたい時や、気分転換にもおすすめの1冊です。

(図書担当 尾住)

## \*図書館に新しく入った本・リクエストありがとうございました

	著者名	NDC
芸術・美術 700		
・映画 えんとつ町のプペル	西野 亮廣 製作総指揮 ・原作・脚本	726.6
文学 900		
・花束みたいな恋をした	坂元 裕二	912.7
・【集英社文庫】恥知らずのパープルヘイズ ～ジョジョの奇妙な冒険より～	上遠野 浩平・荒木 飛呂彦 原作	913.6
・【角川文庫】RDG レッドデータガール ～はじめてのお使い	荻原 規子	913.6
・【幻冬舎文庫】リアル鬼ごっこ	山田 悠介	913.6
・【角川文庫】dele ディーラー	本多 孝好	913.6
・【GA 文庫】好きな子にフラれたが、後輩女子から 「先輩、私じゃダメですか・・・？」と言われた件	柚本 悠斗 著 にやむ イラスト	913.6

## \*チャレンジコーナー・チャレンジしてみよう



語り手の「私」は、昼夜を問わずつきまとう黒猫におびえていました。眠りの中でも悪夢にうなされ、目覚めると黒猫が胸に乗っていて、その熱い吐息が顔にかかります。ずっしりと重く、払い落とすこともできません。  
下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。



★学校ホームページのメニューにあります「図書館」からカラーで見ることができます。「その他新着」からも見ることができます。ぜひご覧ください。



※『黒猫』エドガー・アラン・ポーは、本校図書館にも、新潮社「世界文学全集④⑥」などがあります。

一年間、Library を読んでくださった皆さん、ありがとうございました。

先生方には、職員室内で、各年次連絡ボードに図書委員当番表を一年間掲示していただき、ご協力いただいていたいただき、誠にありがとうございました。このことは、本校に着任してすぐに驚いたことで、とてもうれしいことでした。ありがとうございました。

(図書担当 尾住)

### まちがいさがしの答え

#### 『黒猫』



①カーテン ②猫の片目 ③手すり  
④髪 ⑤手

(今回の激ムズポイント)

正

誤



すべて答えられたかな？

#### 作品の概要・解説

語り手である「私」は、ブルートと名づけた黒猫を飼っていました。私は本来は動物好きでしたが、酒に溺れて次第に癡癡もちになり、ついには衝動的にブルートを殺してしまいます。良心の呵責に苦しむ私の元にブルートにそっくりな黒猫が現れ、すぐに飼いはじめます。しかし、ブルートのことが頭から離れず、やがてその黒猫を怖れるようになります。ある時、地下室に降りていった私は、後ろから黒猫が自分を突き落とそうとしているかと思ひ込み、またもや突発的に

な怒りから殺そうとして、さらなる惨劇と恐怖に私はのみ込まれていきます。本作は、アメリカの詩人・小説家のポー（一八〇九～一八四九年）の恐怖小説の短編です。ただの怪談にとどまらず、衝動的に理性に反した行動をしてしまう、人間の天邪鬼的な心理を描いているのが特徴です。ポーの作品にはほかに心理の矛盾がテーマのものがあり、「天邪鬼」が知られています。なお、ポー自身にも飲酒癖があり、泥酔が死因になったともいわれています。

※『黒猫』は光文社、新潮社、集英社などから発行されています。